



脈々と受け継がれた町人文化の粋、曳山子供歌舞伎。
曳山250年のエピソードを飾るお旅まつりが幕を開けます。
お旅まつり 5月12日(金)～14日(日)

特集に関する問い合わせ 観光交流課 ☎24・8076



特集 曳山子供歌舞伎 次の250年へ

お旅まつりと 曳山子供歌舞伎

小松に初夏の訪れを告げるお旅まつりは、菟橋神社と本折日吉神社の春季例大祭で、加賀前田家三代前田利常公が小松に隠居した17世紀中ごろから始まったと言われています。「お旅」という名は、両社の神輿が氏子町内を渡り歩くことを「旅する」と呼んだことに由来するそうです。

曳山子供歌舞伎が登場したのは、お旅まつりの始まりから約1世紀を経た1766(明和3)年ごろです。小松の礎を築いた利常公が産業を奨励したことで、町人達に富がもたらされ、教養高い町人文化が小松で花開きました。それが原動力となって、曳山の造営や曳山芝居の上演に至ります。

次の250年に向けて

平成28年、曳山子供歌舞伎は250年の節目を迎えました。平成26～29年の4年間を「曳山250年」と銘打ち、様々な取り組みを行ってきました。曳山を持つ八町からの提案で、曳揃え会場での屋夜2回上演、市内外から多くの人が参加した曳山行列、子供役者のお練りなど、新たな魅力が生まれました。

平成28年には『いしかわ歴史遺産』の第1弾として、曳山行事を含む本市の「平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち」が認定されました。また本年3月には、「お旅まつり曳山八基曳揃え」イベントに贈られる『第21回ふるさとイベント大賞』の最優秀賞(総務大臣表彰)を受賞しました。節目の年に、小松が誇る曳山文化の評価が高まりました。

先人達の努力と心意気に感謝するとともに、これからも後継者の育成や、曳山子供歌舞伎の魅力向上、市内外へのアピールなど、次の250年に向けて伝統と格式を守りながら大切に次世代へと伝えていきたいと思います。



▲平成29年3月「ふるさとイベント大賞」最優秀賞受賞(東京国際フォーラムにて)

中町

神霊矢口の渡
頓兵衛住家の段

【あらすじ】

兄を謀殺された新田義岑は恋人の傾城臺とともに、追っ手を逃れて渡り守の頓兵衛の家に一夜の宿を求めます。頓兵衛の娘お舟は義岑に一目惚れし、義岑も心を動かされます。しかし、頓兵衛は義岑の兄を殺した犯人だったのです。深夜、頓兵衛が義岑を殺そうと忍び込み、刀で突き刺しますが、刺したのは身代わりとなった娘のお舟でした。頓兵衛は懇願するお舟をはねのけ、義岑を追いかけます。お舟は瀕死の傷を負いながらも、二人を逃がすために太鼓を叩いて追っ手を欺くのでした。

【見どころ】

父への孝と愛しい人への恋の間に苦しむお舟。悩んだ末に選んだ道は愛しい人への思い。命を懸けて櫓の太鼓を打ち鳴らします。



〈六蔵〉
太田 壱真



〈傾城 臺〉
加藤 桐



〈新田 義岑〉
村井 聖志郎



〈お舟〉
有賀 羽悠



〈頓兵衛〉
加藤 輝一

振付／中村熊昇 義太夫／北野勝彦、茶谷土茂樹 三味線／鶴澤友理

龍助町

玩辞楼十二曲の内
義士外伝「土屋主税」

【あらすじ】

大高源吾は、吉良邸への討ち入りの前日、俳諧師の宝井其角に仕官が決まったと、討ち入りの計画は秘密のまま、別れのあいさつに訪れます。其角が去り際に、「年の瀬や水の流れも人の身も」と詠みかけると、源吾は「明日待たるその宝船」と下の句を返します。

その夜、吉良邸の隣の土屋主税の屋敷で行われた句会で其角から昼間の一件を聞いた主税は、源吾の句の真意に気付きます。やがて陣太鼓の音が聞こえると、主税は高張提灯を掲げ、赤穂浪士への力添えを行うのでした。

【見どころ】

赤穂浪士の討ち入りを待ち望む人々、本懐を果たすため事実を秘密にする赤穂浪士。赤穂浪士に関わる人々の人間模様を表現します。



〈お花〉
麻田 琉花



〈落合 重蔵〉
宮田 悠衣



〈お園〉
角谷 優衣



〈宝井 其角〉
西 菜々子



〈大高 源吾〉
宮田 菜央



〈土屋 主税〉
本村 巴奈

振付／市川団四郎 義太夫／竹本越孝 三味線／福光築山

龍助町上演スケジュール

12日 (金)	13：00
	16：00
	19：00
13日 (土)	11：30 (曳山五基曳揃え)
	16：30 (曳山八基曳揃え)
	19：00 (曳山八基曳揃え)
14日 (日)	10：30
	13：00
	16：00
	19：00

※12日、14日は龍助町町内で上演。



曳山行列 曳手大募集

八基曳揃え会場へ向かう際の曳手を募集します。町内の人と一緒に伝統の曳山を曳いてみませんか。

申し込み／5月8日(月)までに
観光交流課 ☎24・8076

平成25年 龍助町
「加賀見山旧錦絵」



曳山八基曳揃え

会場／細工町交差点

15時 オープニング(曳山八基祝い唄、子供役者お練り)
15時30分 中町上演(1回目)
16時30分 龍助町上演(1回目)
17時30分 幕間休憩、山王日吉太鼓
18時 中町上演(2回目)
19時 龍助町大獅子、龍助町上演(2回目)
20時 フィナーレ

曳山五基曳揃え

会場／花道広場よろっさ

10時 (こまつ曳山交流館みよっさ前) 第5回みよっさ口上大会
11時30分 龍助町上演

曳山曳揃え

5月13日(土)

※いずれも荒天中止。

荒天の場合、子供歌舞伎は曳山展示小屋で上演。

テレビ小松全国衛星生中継
5月13日(土) 15時30分～17時30分

中町上演スケジュール

12日 (金)	14：00
	17：00
	20：00
13日 (土)	15：30 (曳山八基曳揃え)
	18：00 (曳山八基曳揃え)
14日 (日)	13：00
	15：30
	18：00
	21：00

※12日、14日は中町町内で上演。

平成25年 中町
「一の谷嫩軍記 熊谷陣屋之段」



会場・交通案内図
 ※5月13日(土)の交通規制です。
 終日通行止
 8:00~8:30 / 20:30~21:15の間通行止
 8:30~9:00 / 20:45~21:30の間通行止
 8:30~9:30 / 20:45~21:45の間通行止
 12:00~21:30の間通行止
 13:00~13:30 / 20:30~21:30の間通行止
 8:00~8:30 / 13:00~14:00 / 20:30~21:15の間交通規制
 21:00~21:15の間通行止

● 歌舞伎役者に挑戦!
 本格的な舞台セットを背景に、歌舞伎役者になりきってみませんか。
 とき 5月4日(木・祝)、5日(金・祝)、13日(土) いずれも9時~17時
 ところ こまつ芸術劇場うらら小ホール
 問 こまつ芸術劇場うらら ☎20・5500



▲ JR 小松駅では季節の花で彩られた曳山華舞台が皆さんをお出迎え

● 企画展 「曳山250年—工芸の粋を結集した山車—」
 曳山を彩る工芸品に焦点を当て、曳山や子供歌舞伎の文化を紹介。
 とき 5月28日(日) まで
 ところ 博物館
 ◎学芸員によるギャラリートーク
 とき 5月21日(日) 11時~、14時~
 問 博物館 ☎22・0714

● 歌舞伎市
 地元グルメが勢ぞろい。音楽演奏やダンスパフォーマンスなどのステージ、フリーマーケットも開催。
 とき 5月13日(土) 10時~17時、14日(日) 10時~16時
 ところ 中心商店街
 問 NPO法人カブッキータウンこまつ ☎24・8200



● 第5回みよっさ口上大会
 五基曳揃え会場の特設ステージで「とざい、とーざーい」の口上文句に乗せて思いを披露します。司会はおなじみ葛西聖司さん。
 とき 5月13日(土) 10時~11時20分
 ところ 花道広場よろっさ(こまつ曳山交流館みよっさ前) ※雨天時: みよっさ十八番舞台
 問 こまつ曳山交流館みよっさ ☎23・3413



● 着物でおでかけ! 要予約
 着物の貸し出しと着付けを行います。
 とき 5月13日(土)、14日(日) いずれも10時~18時
 着付会場 ①きぬ工房神田(八日市町20)、②こまつ芸術劇場うらら2階会議室
 定員 ①各日20人、②各日10人(いずれも先着順)
 料金 2,000円(着付けのみは1,000円、足袋又は足袋ソックスのプレゼント付き)
 申し込み ①きぬ工房神田 ☎090・1630・8955、②華友禅 菊屋 ☎22・4022

着物の人は、博物館、宮本三郎美術館、本陣記念美術館、錦窯展示館、勸進帳ものがたり館の入館が無料になります。
 期間 5月12日(金)~14日(日)

● 人力車でまちなか散策
 とき 5月13日(土)、14日(日) いずれも11時~17時
 乗り場 ①竜助町交差点付近
 ②北陸銀行小松支店駐車場(京町)
 コース ①こまつ町家と寺院巡りコース
 ②曳山と芦城公園散策コース
 乗車料金 500円/台
 問 観光交流課 ☎24・8076

着物の人は乗車無料



● 曳山250年「シネマdeお旅」
 第13回・第14回全国子供歌舞伎フェスティバルの模様を上映します。
 とき 5月12日(金) 10時~、15時~/13日(土) 10時~、13時15分~/14日(日) 11時35分~、14時10分~
 ところ こまつ芸術劇場うらら大ホール
 入場料 無料
 問 こまつ芸術劇場うらら ☎20・5500

● こまつ町家回廊
 町家を中心に茶会や華展、篠笛の演奏会など各種イベントを開催。町家などを巡るスタンプラリーもあります。
 とき 5月12日(金)~14日(日)
 ところ 市内20カ所以上の町家など
 問 まちデザイン第2課 ☎24・8096



獅子舞を見るのも、まち歩きの楽しみの一つ

こまつDE歌舞伎

歴史と伝統文化に彩られたまちをそぞろ歩きして、おまつり気分を味わおう。